

令和6年度 第1回みんなで支える森林づくり松本地域会議

開催日時 令和6年11月29日（木）13:30～15:30

開催場所 松本市島内山田地区、島内山田公民館

出席委員 佐藤構成員（座長、森林環境教育研究室室長）、牛山構成員（一級建築士）、武井構成員（松本広域森林組合代表理事専務）、平島構成員（自然エネルギーネットまつもと代表）、平林構成員（安曇野市消費者の会）、藤牧構成員（松本市森林環境課課長）、柳澤構成員（（有）柳沢木工所 木育インストラクター）

事務局 宮島松本地域振興局長、丸山林務課長、植木企画幹兼普及係長、狩戸課長補佐兼林産係長、高橋課長補佐兼林務係長

現地調査（13:40～14:45）

（1）開かれた里山の整備・利用促進事業現地視察（松本市島内山田地区）

- ア 一本松窯及び島内山田里山整備利用地域の視察 13:40～13:50
- イ 樹種転換事業及び樹林帯散策路の視察 13:55～14:05
- ウ アルプス眺望散策路・防護柵管理の視察 14:15～14:45



樹種転換事業現場視察の様子



アルプス眺望散策路、防護柵管理現場視察の様子



アルプス眺望散策路、防護柵管理現場視察の様子

地域会議（14:45～15:30）

- （1）開かれた里山の整備・利用計画書への意見照会
- （2）令和5・6年度森林税活用事業の実施状況
- （3）その他

（ 当日の説明事項、意見交換の詳細については
別添資料のとおり ）



意見交換の様子

みんなで支える森林づくり松本地域会議（令和6年度）主な意見等（議事録）

【開催日】

令和6年11月29日（金） 13:30～15:30

【開催場所】

松本市島内山田地区 開かれた里山の整備・利用推進事業の現場
松本市島内 山田公民館 長野県松本市島内 9208

【会議事項】

- 1 開かれた里山の整備・利用計画書への意見照会について（報告）
- 2 令和5、6年度森林税活用事業の実施状況について
- 3 その他

【出席構成員】（50音順）

牛山 奈々構成員
佐藤 喜男構成員（座長）
武井 均構成員
平島 安人構成員
平林 千代構成員
藤牧 靖次構成員
柳澤 由香利構成員
※太田美絵構成員欠席

【松本地域振興局出席者】

宮島松本地域振興局長
丸山林務課長、植木企画幹兼普及係長、高橋課長補佐兼林務係長、
狩戸課長補佐兼林産係長、吉川課長補佐、横山担当係長、花岡主任、大澤技師

【会議の内容等】

- 1 開かれた里山の整備・利用計画書への意見照会について（報告）
資料1により説明（横山担当係長）
- 2 令和5、6年度森林税活用事業の実施状況について
資料2、3により説明（植木企画幹、高橋課長補佐）

【会議事項進行・質疑】

（佐藤座長）

まず、本日の森林税活用事業の現場視察に際し、活動を説明いただいた松本市島内山田地区の方々に感謝申し上げます。

それでは議事に入る。

ただいま事務局から説明がありました。各委員意見・質問をお願いしたい。

（平林構成員）

キッセイ文化ホールで開催された「信州山フェスタ」への出展などのように幅広い世代に森林税・税活用事業をPRしていく必要がある。

本日、視察させていただいた松本市島内山田地区は、地元の皆さんの大変な努力と熱意により素晴らしい里山に整備されている。

子どもたちに、このような身近な里山の魅力を伝えていくことは重要である。

(武井構成員)

資料3-1「令和6年度 森林税活用事業」について確認したい。

市村担当者などから、要望に対して県の予算が追い付いていないと聞いている。

それにもかかわらず、松本地域の当初予算に対し、実施見込みが大幅に下回っている。

特に、市町村森林整備支援事業については、松くい虫対策などの課題が山積しており、市村の要望も高い中で付いた予算は非常に少ない上に、その予算に対しても執行が進んでいない原因は何か。

(藤牧構成員)

市町村森林整備支援事業について、同様の懸念を抱いている。

また、森林税活用事業で使いきれなかった財源を一般財源の事業に流用しているとの話を聞いたが事実か。

(丸山林務課長)

資料3-1「2 防災減災のための里山整備事業」、「3 開かれた里山の整備事業」については、要望調査後に、地元役員交代等で事業準備や里山整備利用地域の認定が間に合っていないことが原因である。

また、目的税である森林税の財源を一般財源の事業に流用することはない。

(植木企画幹兼普及係長)

資料3-1「16~19 市町村森林整備支援事業」については、全県予算1億7,500万円余に対し、松本地域で約7,200万円の要望があり、不足しているのは事実であるが、松本管内の当初予算額は、執行見込と同額の3,200万円余であり、ほぼ予算通りの執行となる見込みである。

資料3-1の「松本管内当初予算」の欄に、市村からの当初要望額を記載してしまい、誤解を招いてしまったので、お詫びして訂正したい。

また、市町村森林整備支援事業については要望が高いことから、今後、管内市村に対し追加要望を照会したいと考えている。

(牛山構成員)

今回、地域会議に参加して、森林税の使い道について改めて知る良い機会になった。

資料3-1「5 あたりまえに木のある暮らし推進事業」について、県産材を使用して施工すると、補助金を使っても輸入材に比べて割高になる。

私は設計事務所に勤務しているが、施主からの強い要望がない限り、建築士の立場からコストが掛かる県産材の使用を提案することは難しい。

そこで、施主となる県民に広くPRして、県産材の魅力へを伝えてほしい。

(武井構成員)

割高になっても県産材を使用して施工したいと思わせる、魅力を感じさせるように施策をもうひとひねり工夫してほしい。

(植木企画幹兼普及係長)

今後も様々な媒体を活用してPRに努めたい。

また、建築士のような専門家の立場からも、施主に対し補助金の活用をアドバイスしていただきたい。

(佐藤座長)

ここまでの意見のように、県民は森林税の使途を十分に理解していないのではないかと。

以前は、国道から見えるところに森林税のPRを掲示していた。

また、朝日村役場のように県産材を活用した良い事例もあるので、積極的にPRして行ってほしい。

(丸山林務課長)

昨年、森林税に関する県民アンケートを実施したが、指摘のとおり結果となっている。

森林税を認知している県民は6割になるが、その用途を知っている県民は2割に留まっている。

そこで、今年度は森林税とその用途について、世代などのターゲットに応じた広報を強化する方向で進めている。

また、以前は間伐、森林整備を中心に森林税を活用していたが、県民の意見を聞きながら、木育や県産材の活用などにも用途を広げている。

(平島構成員)

「開かれた里山整備・利用推進事業について、事業の担い手の高齢化が進む中で、各地区における事業が継続していけるのか不安を感じている。

招待する側とお客さんの側と別れて多数の参加者を集めるイベントではなく、多少危険な作業でも、参加者を絞って共に取組むことで、その方が新たな担い手になってくれる可能性もある。

松本市の森林再生市民会議と森林税活用事業とを連携させて取組んではどうか。

(藤牧構成員)

平島構成員の発言について補足したい。

松本市の森林再生市民会議では、森林に関する長期ビジョンを策定している。

市民と森林を近づけるというビジョンを達成していくためには、今回視察させていただいた島内山田地区の皆さんのような市民の組織が必要となる。

また、森林環境譲与税と森林税の棲み分けについてどうなるのか。

(丸山課長)

森林環境譲与税の主な目的は、手入れが進んでいなかった森林を整備し、森林が本来備えている広域的な機能を発揮させることにある。

また、従来からの森林整備の財源に置き換えるのではなく、新たな枠組みで取組む森林整備の財源に充てるものとされている。

一方、県の森林税は、県全体に森林整備の効果が波及するように更に幅広い範囲で取組を実施する財源としている。

(柳澤構成員)

木育インストラクターをやっている。

木育というと子ども向けのイメージがあるが、自分の目指す木育は、大人も一緒に木の良さを知ってもらい、大人にも木のファンになってもらうことである。

資料3-1「8 やまほいくのフィールド整備や学校林の整備等」などを見ると、子ども向けの取組をメインに据えているが、その親もセットで事業対象とすることで、牛山構成員の指摘のとおり、県産材や地元産材を使って家を建てたいと考える県民が増えるし、結果として林業も活性化するのではないか。

また、今回視察しさせていただいた島内山田地区のように、親子セットで地元の里山を散策ができるようなメニューを森林税で進めていくべきである。

(佐藤座長)

以上を持ち、会議事項全て終わりとなります。

それでは進行を退任させていただきます。御協力ありがとうございました。